

身近な医療の現場から

「脳疾患リスク」を見逃さない！  
早期発見で適切な治療を

副院長 脳神経外科 富永 二郎 先生のお話



に加え、末梢の細かい血管まで見ることができ、断面の画像でも解像度が高く、小さな病変の発見も可能になりました。

Q. 検査による身体への負担は？

A. MRI検査の利点は、CT検査で使う造影剤などの薬を使わずに、血管撮影ができることです。レントゲンやCTのようなX線ではなく、強力な磁力を使います。そのため、ペースメーカーを装着している方や、手術などで体内に金属の医療器具がある方は検査を受けられない場合があります。

最新鋭のMRIでは、症状として出ない隠れ脳梗塞（無症候性脳梗塞）や脳動脈瘤のほか、詰まりかけている血管や、病気を引き起こすリスクが高い血管の異常なども把握できます。早期発見することで、発症を予防する治療をより早く開始できます。

西湘病院では、今年からシーメンス社製の最新鋭のMRI装置（3T）を導入。脳疾患を専門とする副院長の富永二郎先生に詳しい話を聞きました。

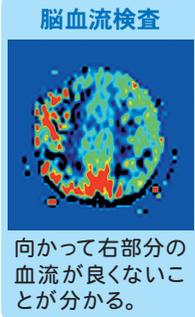
Q. これまでのMRI装置との違いは？

A. 圧倒的に画質が向上し、太い血管の状態

今回導入したMRI装置は、従来型に比べ、中が明るくなり、圧迫感が改善されました。検査時間は15〜20分ほどです。待ち時間の軽減も可能になりました。

Q. どのような病気がわかりますか？

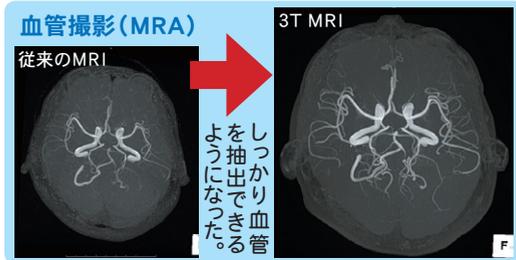
A. 頭の中の構造や血管の状態、CTでは撮りにくい脳の下部、小脳や脳幹と呼ばれる部分の様子もわかります。もちろん、関節や脊椎、腹部領域の検査にも有用です。頭部の検査では、慢性硬膜下血腫・脳腫瘍・頭部外傷・脳出血・脳梗塞など、緊急に治療が必要な疾患を見つけます。



最新MRI装置(3T)  
時計やアクセサリー、携帯電話など金属類はすべて外し、検査室内へ。



リラックスした状態で検査を受けて頂けます。



次回は最新MRI検査でわかる「治る認知症を見逃さない」を予定しています。

取材協力

医療法人 財団報徳会

**西湘病院**

院長 原 俊介

小田原市扇町1-16-35

☎0465-35-5773